

中遠・直鞍 地区公民館職員研修会

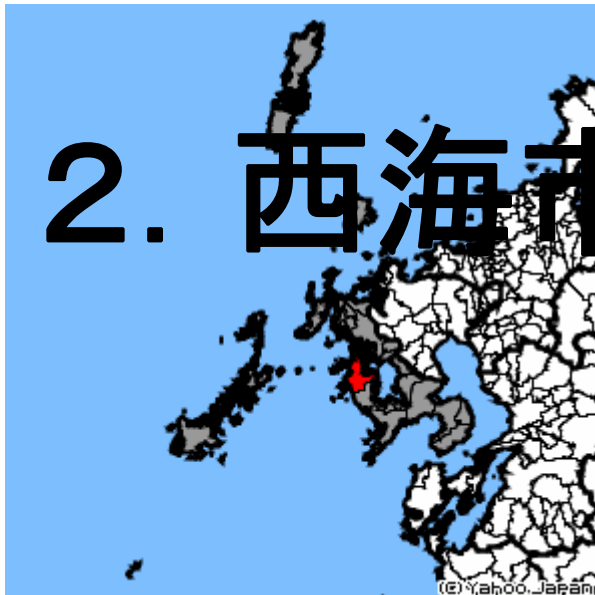
～地区公民館長との先進地視察について～

1. 先進地視察研修の目的

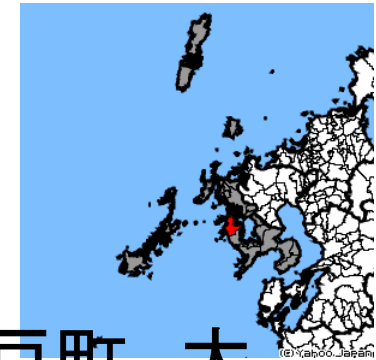
- 先進的な活動を行っている地区を訪問し、その活動について見聞きすることで本町の生涯学習の推進と発展に役立てることを目的としている。



2. 西海市と遠賀町の比較

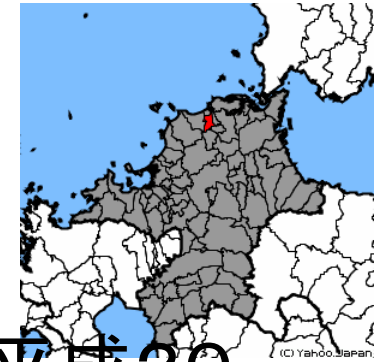


西海市



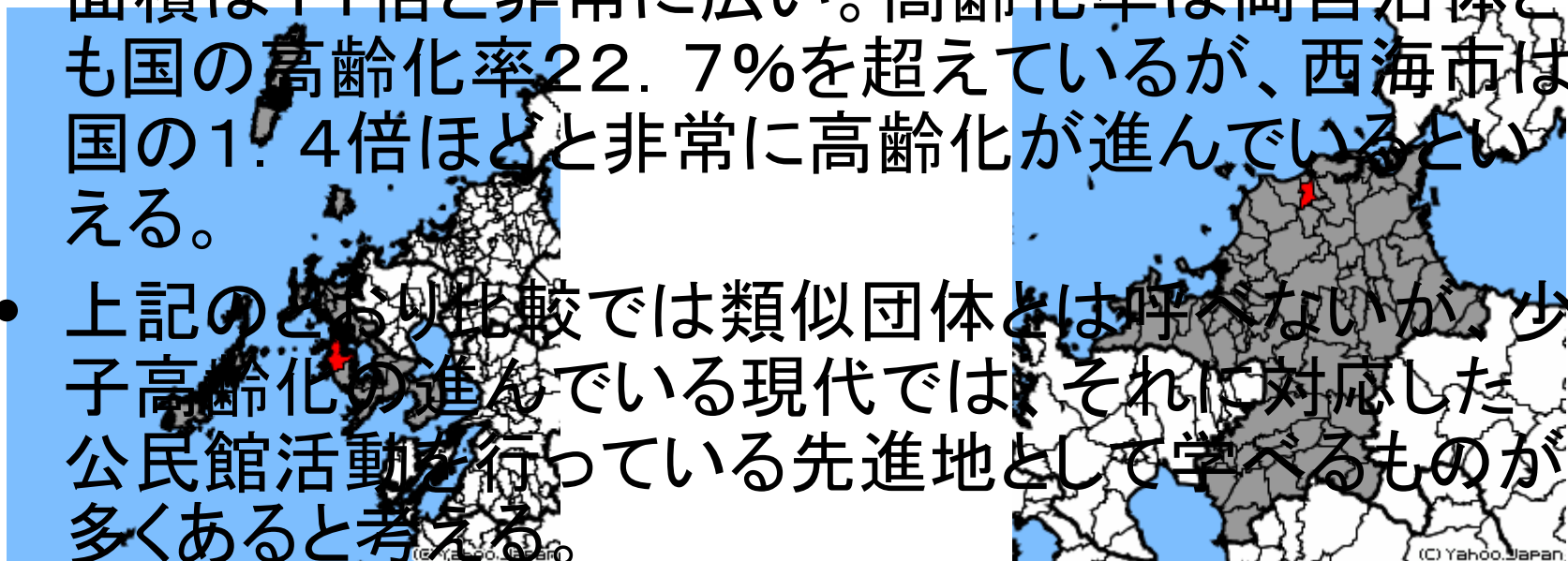
- 平成17年に西海町、西彼町、大島町、崎戸町、大瀬戸町の5つの町で合併。
- 人口は3万2千人ほどで、高齢化率31.6%、ここ数年年間5~600人程度の人口減少が続いている。
- 面積 242km² 人口密度 131人/km²
- 視察先である大串校区公民館は、大串小学校の校区を対象としたものであり、同小学校の児童数は119人
- 視察先の西彼教育文化センターは、目の前に海の広がる非常に景色のいい場所。

遠賀町



- 人口2万人ほどで、高齢化率が23.7%(平成20年9月末)、平成17年の国勢調査と比べて人口の増減はほとんど無い。
- 面積 22km² 人口密度 871人/km²

- 西海市は遠賀町と比べ人口比では1.6倍ほどだが、面積は11倍と非常に広い。高齢化率は両自治体とも国の高齢化率22.7%を超えているが、西海市は国の1.4倍ほどと非常に高齢化が進んでいるといえる。
- 上記のとおり比較では類似団体とは呼べないが、少子高齢化が進んでいる現代では、それに対応した公民館活動を行っている先進地として学べるものが多いと考える。



3. 大串校区公民館



設立に至る流れ

- 合併以前の各町の公民館は自治公民館としていた町（西海町・西彼町・大島町）と、公立公民館としていた町（崎戸町・大瀬戸町）があったため、合併後統一した形での公民館の設立を考える必要が出てきた。
- そんな中、大串小学校（西彼地区）より学校支援の依頼があり、学校支援協議会を立ち上げる。



- そして、大串小学校区の3地区で1つの校区公民館を作るため、平成19年4月に準備委員会を設立。同時にモデル事業(休耕田での田植え、ビオトープ作成など)の開始。
- 翌平成20年4月大串校区公民館設立。
- 校区公民館を設立するにあたって、校区内にあった西彼教育文化センターを利用しており、新しく建物を建てる必要は無かった。

予算等

- 校区公民館予算

年間予算	支出項目
393,000円	講師謝礼、賄材料費、消耗品

- 校区公民館長待遇

役職	待遇	報酬
館長	市非常勤特別職	年額・54,000円

運営審議委員

- 組織体制

所属	内訳
校区公民館	館長① 主事① 書記①
自治公民館	区長③ 区長代理③ 公民館主事③
老人会	老人会長④
婦人会	婦人会長③
民生委員	民生委員④
子ども会	地区理事③
小学校	校長① 教頭① 学校評議委員①
P T A	会長① 副会長③
	更生保護女性会① 保育園長① 幼稚園長①
	駐在所①
	教育委員会（社会教育課西彼区）①
以上38名で組織。 ※○の中の数字は人数	

平成20年度公民館事業

月日	事業内容	参加者数
4 / 2 2	運営審議会	30名
5 / 1 2	第1回運営審議会 年間事業計画	30名
6 / 4	農業体験（畑づくり）	子ども20名
7 / 7 7 / 8	ちびっ子菜園収穫（ほか適宜） 役員会	子ども20名 15名
8 / 1 0 8 / 1 3	鳥加千日祭り 三地区夏まつり	300名
9 / 2 9 / 9 9 / 1 7	第2回運営審議会 役員会 通学合宿協力者会議	30名 25名 50名
1 0 / 9 1 0 / 2 0 ~ 2 2 1 0 / 2 6	役員会（通学合宿・校区マラソン大会） 通学合宿 3公民館 大串州崎神社まつり	子ども67名 大人30名
1 1 / 2 5	役員会 （マラソン・駅伝・ウォーキング大会）	25名
1 2 / 6	マラソン・駅伝・ウォーキング大会	200名
1 / 2 2	第3回運営審議会 事業反省	
2 / 1 2 2 / 1 7	ヨガ教室（教育文化センター） 〃	9名 8名
定期講座	パソコン教室 11/26・28、12/1・3・5	14名

公民館活動について

活動の対象

- 全世帯を対象としているが、事業展開としては子どもを中心として組み立てている。



4. 考察

大串小学校区では校区公民館がなぜ設立できたのか？

- 行政職員曰く)「取り組みがうまくいった背景には、地域の力、学校の力が大きい。区長(現校区公民館長)は謙遜されるが、**区長のエネルギーはすごかった。**それによって、行政が動かされた部分が多い。現に、校区公民館長は現在も地区公民館長もされている」
- 設立の理由の一端に学校支援という目的があったため、学校の協力は得易かった。**また、学校教育と校区公民館活動を関連付けることで、双方の活動が行いやすくなっている。**

通学合宿・・・六年生が家庭科で献立などを習う
ので、その際に通学合宿の献立の作成を行
う。買い物なども子どもも自身で行うなどの家
事体験が多く、全般的に家庭科とのつながり
が深い。



- **農業体験**・・・指導者の選任や体験の準備、当日のお世話など校区公民館で完全バックアップ。また、田んぼに至っては、使用しなくなった学校のプールを埋め立て学校専用の田んぼを作成した。これにより、農業体験を毎年行えるようになった。制作の際の予算・協力体制はPTAが行った。田んぼの制作に当たっては、ボランティアの協力や、土の無償提供などがあった。



- **ビオトープ作り**・・・校庭の片隅に池を作り、植物を植えてある。子ども達の自然生態系の観察として利用されている。制作、維持管理はPTAが行っている。



つまり、

- 「場所」もしくは「教科」など、活動の一端に「学校」がある。また、学校と保護者や住民のつながり、ひいては学校を中心とした地区全体のつながりを濃くする大きな役割を果たしている。

5. まとめ

- 大串小学校は児童数119名、小学校区内の行政区は3区と、本町で最も生徒数の少ない広渡小学校の生徒数239名、校区内の行政区数6区と比較して1/2の規模である。
- さらに、同校区では地区公民館の所在は行政区と一致せず、区長が6人、公民館長は10人となっている。
- 校区公民館行事には各地区公民館長も協力しており、それとは別に地区公民館活動も行っている。地区公民館行事は本町の各館長も質問をされ、ほぼ同程度の活動をしているということで、本町の公民館長も驚くとともに非常に感心されていた。

以上から、

- 本町の今後の取り組みとして、同じ校区公民館での組織作りは困難と思えるが、校区にこだわらず、いくつかの行政区でまとめた**広域地区公民館**としては行えるのではないか。
- また、施設の問題等はあるが、本町の地区公民館長会会長も非常に興味を持たれ、モデル事業を行ってみる価値はあるのではないか。